

実際の授業をイメージしてみる。

■本時の場面を通読したあと。

T 豆太は今までに、真夜中に一人で外に出たことはあった？

C ない

C おくびようなやつで、一人でせつちんにもいけない。

C しょんべんでも、じさまといっしょでないと行けない。

T 板書「おくびよう」「夜、一人でしょんべんにもいけない」

T そんな弱虫でおくびようの豆太が、真夜中にふもとの村まで走ったって、書いてるね。

「豆太は、小犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふつとばして走り出した。」

(板書)

一人でしょんべんにもいけない豆太なのに、どうしてこんなに変わっちゃったのかな？

おくびよう豆太

板書

ふつとばして走りだした

C じさまが病気になったから

C じさまが死にそうになってる

C それでお医者様を呼びにいったの

T じさまがたいへんなことになって、豆太が変わったんだね。

豆太の心がどんなに変わっていったのか、それをこの1時間で考えていこうね。

(この時間の課題)

T もう一度最初のところから読んでくれる？

C 「豆太は、……じさまはいない。」

T 「じさまあつ」でところ、今□□ちゃんはこんなふうに残んだね。みんなならどう読む？
自分自分でちよつと読んでみて。

C 何人かに読ませる

T ○○ちゃんは、ふるえるように残んだね

××ちゃんは、さけぶように残んだね。

みんなは誰のがいいと思った？

C ○○ちゃん。くまののうなり声がいきなりしておそろしかつたで声も出ないぐらいなん。

C ××ちゃんのもいい。じさまに助けてもらおうと思って必死なん。

T それでいい？じやその続き読んでくれる？

C 「ま、豆太……すごくなるだけだ。」

T 熊だと思ったのは何だったの？

C じさまのうなり声

C じさまがはらがいたくてうなっていたの。

T じさまの声だったんだね。そのじさまを見て、こう書いてるね。

「じさまっ」

板書

こわくて、びっくらしして、豆太はじさまにとびついた。

T このときの豆太の心の中を考えてくれる？

「こわくて」って、何がこわかったんだろう……

「びっくらしして」って、ここのびっくりは何だろう……

C じさまがものすごう苦しんでるで、こわくなったん。

C 熊のうなり声に思えるぐらいすごい声だしてる

C 痛くて、ふとんの中にいてられんぐらい苦しんでるで、見られんぐらいこわい。

C 今まで、こんなじさま見たことがなかったで、びっくりにしたん。

T 「じさまっ」て言って「とびついた」のは？どうしようとしたのかね。

C 「だいじょうぶかっ」ていう気持ちでとびついたんやと思う。

C どうしていいかわからなかったん。

C 豆太は小さいし、そうするしかなかったん。

C 「じさまっ」て言ったらいつものじさまにもどってくれるかもしれん。

T けれども、じさまはどうだったの？

C ますますすごくなるだけ。

C よけい苦しそうになった。

T そんなじさまを見て、「医者様をよばなくっちゃ」って言ってるね。

これ、だれに言ってるの……？じさまに言ってるの？

C じぶんに言ってるの。

C 自分に言い聞かせてるの。

C じさまと自分しかいないで、かくごを決めてるの。

T 走っていく場面を読んでみましよう。

C 「豆太は、小犬みたいに……医者様へ走った。」

T 「豆太はなきなき走った」て書いてあるね。

なぜ、「なきなき」なの？

C こわいで。

C 外なんか出たことないのに初めてやで。

C 霜が足にかみついて、痛いの

C 冬の夜中やのにねまきのまんまやで寒い。

T それでも、やめずに走り続けたのは？

C お医者さまを読んでこないとじさまが死んでしまう

C じさまをなんとかしても助けないの。

C じさまが死ぬほうがよけいこわい。